

# あつかしやまぼうらい 国史跡 阿津賀志山防塁 第27次調査 現地説明会

令和7年8月3日(日) 午前10時00分～11時30分

## 1. 調査要項

調査地点 阿津賀志山防塁 西国見地区 (福島県伊達郡国見町大字森山字西国見地内)  
調査面積 トレンチ1本 18㎡ (3×6m)、周辺測量調査  
調査期間 令和7年6月10日～8月7日  
調査主体 国見町教育委員会 (調査担当: 企画調整課 電話 024-585-2967)

## 2. 阿津賀志山防塁の概要

阿津賀志山防塁 (以下、「防塁」という) は、福島盆地北端に位置する標高289mの阿津賀志山の中腹 (標高約170m付近) から、平野部をとり阿武隈川の旧氾濫原までの全長3.2kmにおよぶ長大な防御陣地です。急峻な山中の地形から山裾の丘陵地形、平野部では小河川(滑川)の段丘上と、各地の地形を最大限に活かして二重の堀と三重の土塁がつくられています。また、これら防塁の範囲には、「阿津加志山」「国見」「大木戸」「下二重堀」などの地名が南北に連なっていることも特徴です。現在は東北自動車道・JR東北本線・国道4号・県道などで分断され、耕作や水路などによって地形の改変がみられますが、随所に土塁状の高まりや段差と堀跡の痕跡が残ります。

これらの現存する遺構は、藤原泰衡が「阿津賀志山」と「国見宿」の間に構築した「口五丈堀」(『吾妻鏡』文治五年八月七日の記述) であると伝えられ、高度経済成長期の開発(東北自動車道・伊達西部地区は場整備事業)に伴う大規模発掘調査によって「口五丈」にはほぼ一致する幅15mの規模の遺構が確認されています。この防塁を中心に、源頼朝が率いる鎌倉方と奥州藤原氏が、文治5年(1189)8月に激しい戦いを行い、この地の敗退が奥州藤原氏の滅亡を決定づけるものとなりました(奥州合戦)。この戦いで勝利したことが、鎌倉幕府の全国支配の帰趨を考える上で極めて重要であることから、昭和56年(1981)に、その一部が国史跡に指定されました。

国見町では、平成20年度(2008)から継続して範囲・内容確認調査と国史跡範囲の追加にかかわる取組を行い、平成27年度(2015)からは第1期整備として「あつかし千年公園」(下二重堀地区)及び各地区の整備を実施してきました。

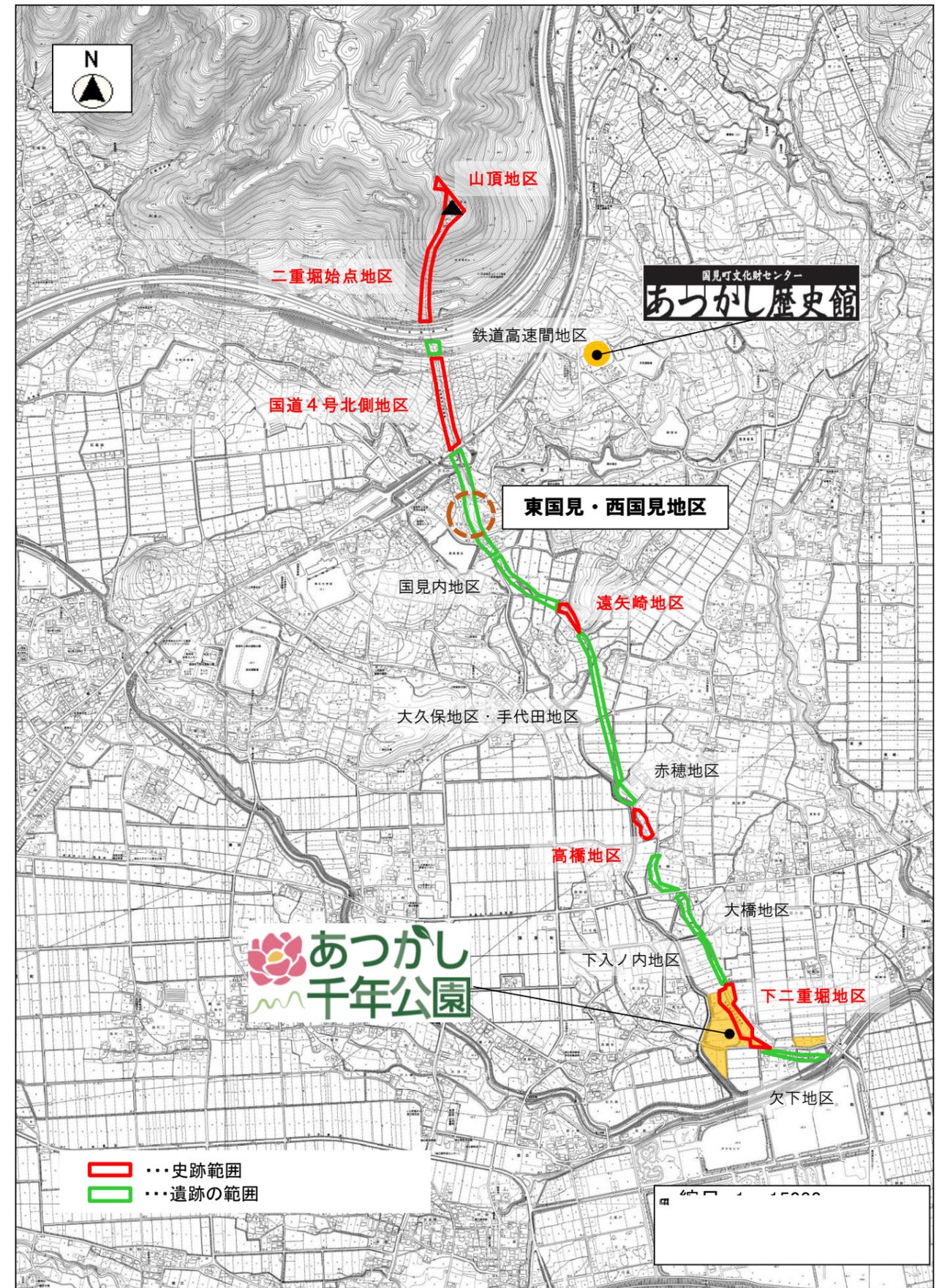
## 3. 第27次調査の概要

今年度の調査は、国史跡範囲外の西国見地区を対象としています。同地区は、外土塁・外堀・中土塁・内堀が良好に残存する地区で、阿津賀志山裾の丘陵緩斜面 (標高80～60m) 地形に立地し、この丘陵西縁近くを沿うように防塁が構築されています。今回の調査では、外土塁が途切れる不明瞭な箇所(箇所)に1本のトレンチを設定しました。

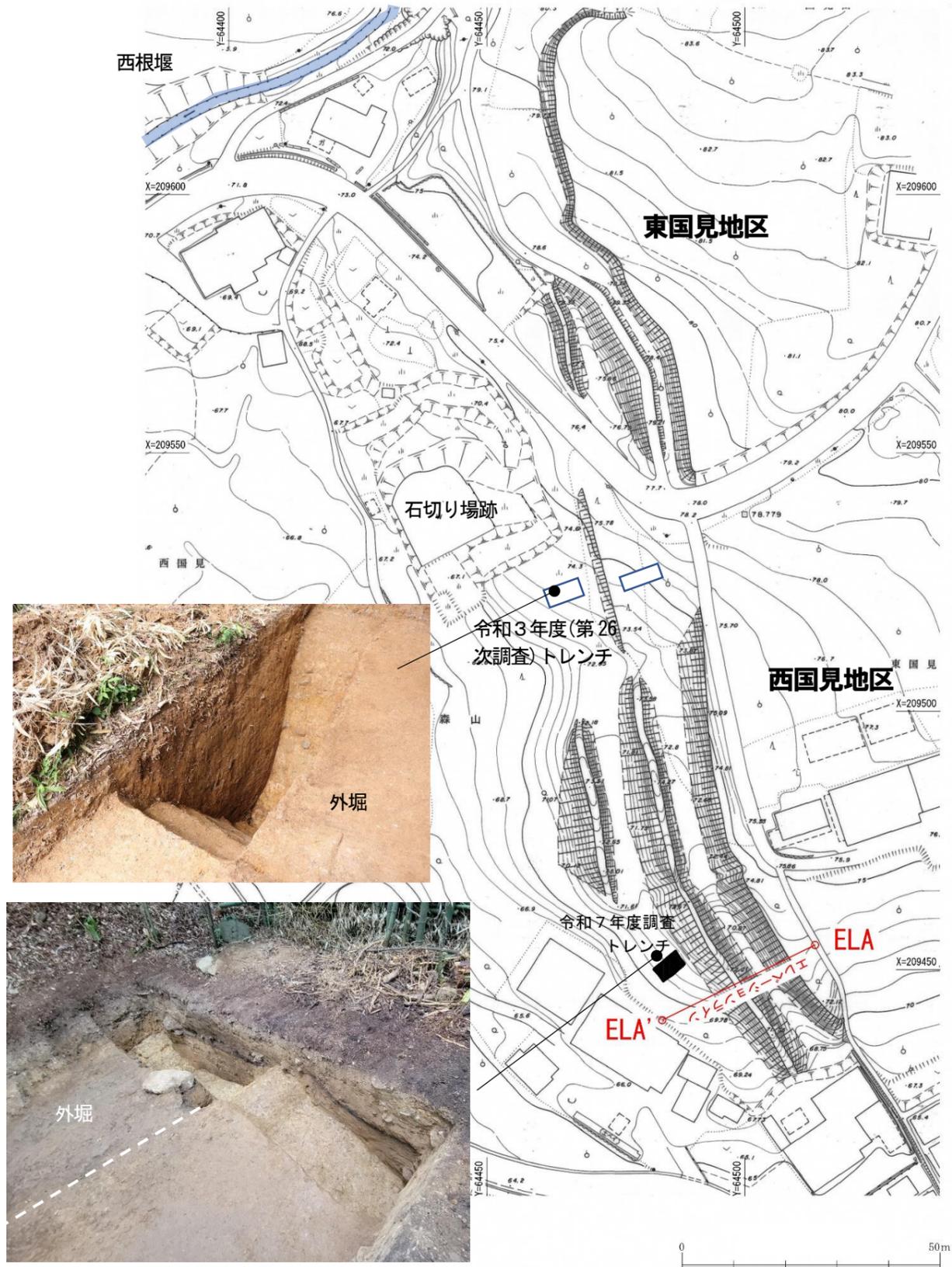
表土を除去したところ、幅3mで土色変化が確認され、その範囲を一部掘り下げたところ堀跡(外堀)が確認されました。堀は、底面が平坦で逆ハの字状に開く「箱薬研」と呼ばれる形状で、上幅3m以上、底幅約1.2m、深さ約1m以上、中土塁の現況頂部との比高差5.3mの規模です。法面の傾きは、北東(中土塁)側が45度、南西側が32～43度を測ります。堀の堆積土はいずれも自然堆積で、破碎された凝灰岩や礫が含まれます。土塁の積土も同様の特徴をもつことから、土塁の崩落土が堆積したものと考えられます。

外土塁は、想定される範囲も発掘しましたが、積土などの明確な痕跡を見つけることはできませんでした。また、今回の調査で遺物の出土はありませんでした。

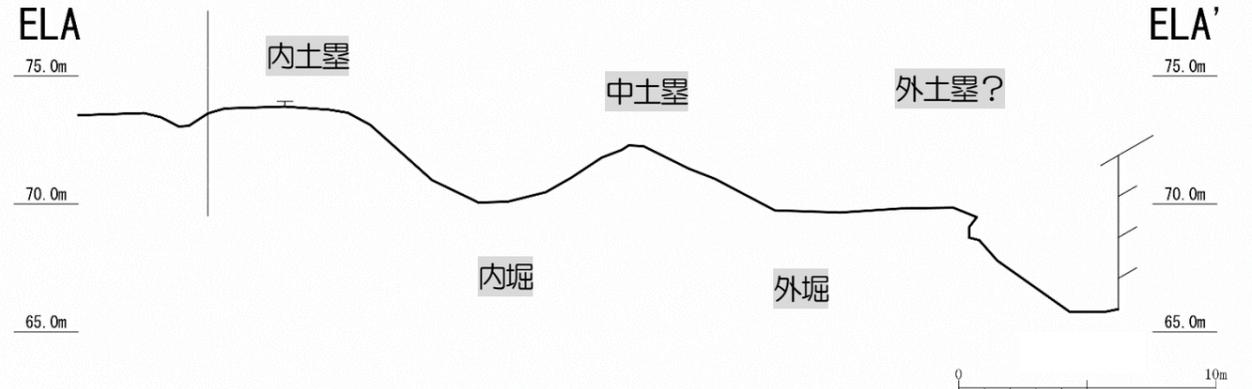
上記の調査成果をまとめると、外堀とみられる堀跡1条を確認しましたが、外土塁の存否は、今後も課題となります。また外堀は、同地区内の令和3年度(第26次調査)で確認された外堀が堀底に平坦面のないV字状(薬研)で形状が異なる点も注目されます。



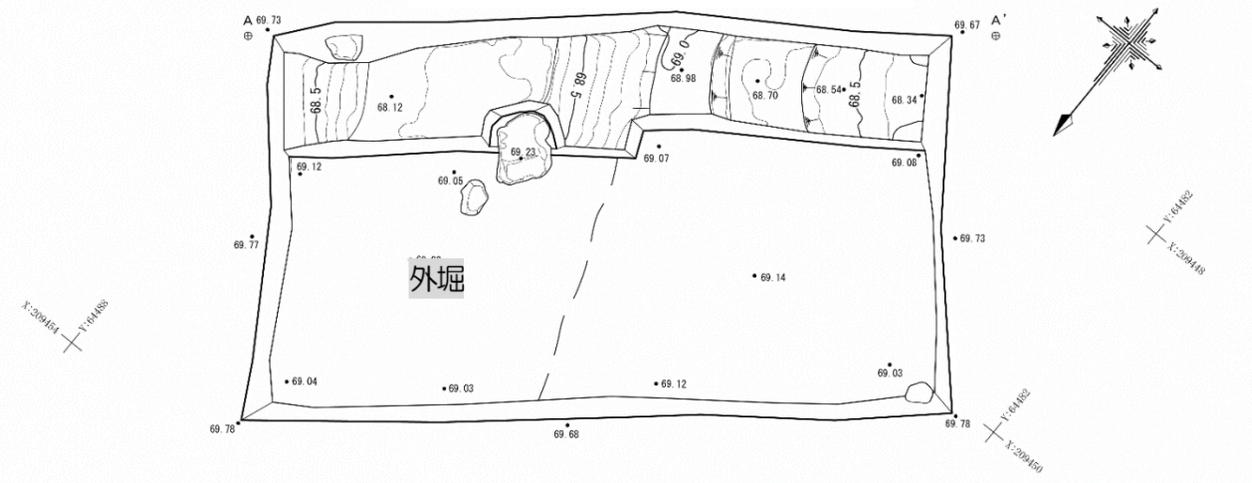
阿津賀志山防塁 東国見地区・西国見地区の現況図



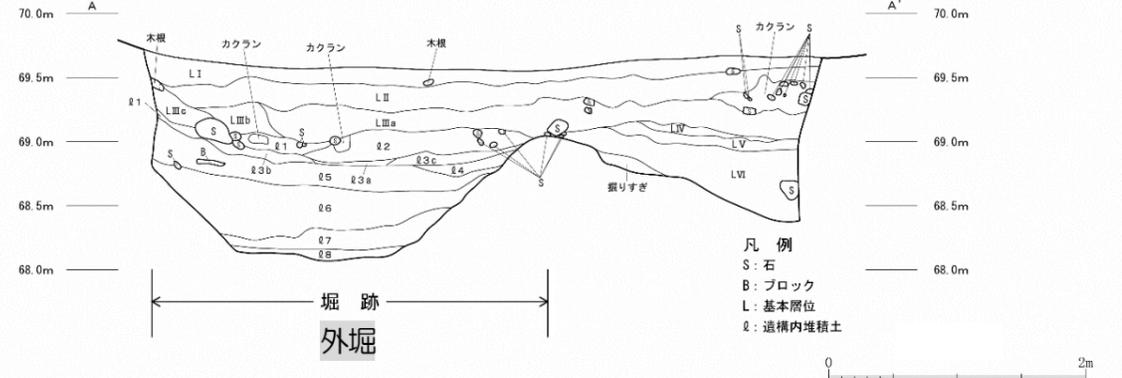
エレベーション図 (参考図)  
(令和5年度測量)



令和7年度(第27次)調査 トレンチ平面図



調査トレンチ南壁土層堆積図



基本層位

- I層(L I) 黒褐色シルト7.5YR3/2、腐葉土・木根・竹根が多く混じる、締まり乏しく、粘性なし
- II層(L II) 暗褐色シルト7.5YR3/3、細砂を全面に密度薄いが含む、締まり固く、粘性低い
- IIIa層(L IIIa) 褐色シルト 7.5YR4/3、小砂を疎かに含む。締まり固く、粘性有り
- IIIb層(L IIIb) 褐色シルト 7.5YR4/3、細砂(1cm以下)を密に含む、締まり固い、粘性低い
- IIIc層(L IIIc) 暗褐色シルト7.5YR3/3、凝灰岩質の小礫(3~5cm大)を密に含む、締まり固い、粘性低い
- B (ブロック) にぶい褐色細砂7.5YR5/3、やや黒味を帯びる、締まりあり、粘性無し
- IV層(L IV) にぶい褐色シルト7.5YR5/3、凝灰岩質の小礫を疎かに含む、締まり有り、粘性をもつ
- V層(L V) 黒褐色シルト7.5YR3/2、締まりあるが固くはない、粘性有り
- VI層(L VI) 褐色粘質シルト7.5YR4/3、小礫(2~3cm大)を疎かに含む、締まり固く、粘性高い

堀跡(外堀)

- Q1 暗褐色シルト7.5YR3/3、凝灰岩質の細砂(0.5~1cm大)を多く含む、締まり固い、粘性高い
- Q2 暗褐色シルト7.5YR4/3、褐色土の小ブロック、土粒を少し含む、締まり固い、粘性低い
- Q3a 黒褐色シルト7.5YR3/2、細砂(0.5cm大)を僅かに含む、締まり有り、粘性有り
- Q3b 暗褐色シルト7.5YR3/3、小礫(0.5~1cm大)を少し疎かに含む、締まり有り、粘性低い
- Q3c 黒色シルト 7.5YR2/1、締まり有り、粘性有り
- Q4 明褐色シルト7.5YR5/6、締まり固い、粘性有り
- Q5 明褐色シルト7.5YR5/6、褐色土粒、小礫(2cm大)を多く含む、締まり固い、粘性やや低い
- Q6 にぶい褐色粘質シルト7.5YR5/4、細砂を密に含む、層内に白色の礫が幅3~7cm大で数本の帯状ブロックの堆積が認められる
- Q7 締まり固い、粘性低い
- Q8 にぶい褐色粘質シルト7.5YR5/4、86より礫の入り込みは少ない、締まり有り、粘性有り
- 褐色粘質シルト7.5YR4/4、やや黒味をもつ、小礫を少し含む、締まり有り、粘性を有する